



## タイトルの意味と使用する用語について

この通信で、学校運営協議会や地域学校協働活動についての情報を時おりお伝えしていきます。市内小中高等学校及び各地域の事例等紹介しています。

「ときたまご」という通信のタイトルに込められた意味は三つです。一つは黄身が学校で白身が地域、学校と地域が「溶き卵」のように混ざり合う姿です。そしてもう一つは、ふっくらとした「溶き卵」が卵焼きや茶わん蒸し、ケーキなどに形を変え、味わい深いそれぞれの学校と地域に仕上がってほしいとの願いを込めました。最後の一つは「時たま」の発行となるかもしれないからです。

ところで、学校運営協議会やコミュニティ・スクール、地域学校協働活動などいずれも長いので、この地協ニュースではCS（コミュニティ・スクールの略）、地協（地域学校協働活動の略）と短くし、地域学校協働活動推進員は「地協推進員」と記述します。また、学校名も「〇〇小」「〇〇中」と略すこともありますので、ご了承ください。

## 活動への意欲と気遣い ～第1回地協推進員情報交換会～

5月26日(金) 10:00～11:30 江南公民館にて、第1回地協推進員情報交換会を開きました。平日の午前中ながら22名もの参加がありました。今年度から地協推進員とされた鈴川小の笹森愛さん、八中の開沼雅義さんを皆さんにご紹介してスタートしました。

次に、高瀬小の地協推進員の小林正次さんに「私が描く(高瀬の)子ども、学校、地域の未来」というテーマで事例を紹介していただきました。6年生の総合的な学習や地域で子どもを育てる世代間交流によって、子どもに変容が見られたこと、地協推進員として大切にしていることなど、実にわかりやすく興味深い内



容でした。参加者からは、たくさんの質問が出されました。質疑応答の中に、活動への意欲と忙しい学校への気遣いの言葉がありました。また、管理職以外の教員の更なる理解の必要性も話題となりました。その点に関しては動き出している学校等があるようです。



次に5つのグループに分かれて情報交換（グループワーク）を行いました。「私が描く20年後の子ども・学校・地域」から「今、地協推進員の私ができること」を話し合いました。20年後の学校の存在を心配される方、地域での関わりが希薄となることを気にかける方、様々でした。「生きた体験を提供したい。」「既存の団体とのつなぎ役になる。」「福祉の面で、高齢者との関りをもたせたい。」「地域のすばらしさを子どもに伝えたい。」「地域の人たちの交流を深めたい。」などの意見が出され、実に意欲的な話し合いとなりました。

## 各校の工夫の様子 ～各校の学校運営協議会取材～

今年度、本課の担当3名が各校の学校運営協議会を取材させていただいております。数年をかけて、市内全ての小中高等学校の学校運営協議会を取材させていただく計画です。

今回は三中を紹介します。授業通覧の中で、1年生の地域探究「ブラふたば」で地域を調査した掲示物が委員の方々の目に留まっていました。学校経営基本方針承認の後、「地域の強みを活かした教育活動の展開」というテーマで4・5人グループのKJ法での熟議が行われ、①「地域の教育資源を活かした教育活動」②「三生生に身に付けてほしい力」を話し合いました。プレゼンカ、駅周辺を案内（日本語や英語で）できる力などが出されました。その後、1年生の調査用紙を公民館へ掲示できないものかとの意見が出され、公民館とのつながりが模索されました。熟議において、めざす生徒や学校の姿を学校と地域が共有できたことで、地域学校協働活動が生み出されるとともに、学校と公民館の連携が見えてきたのではないかと思います。

